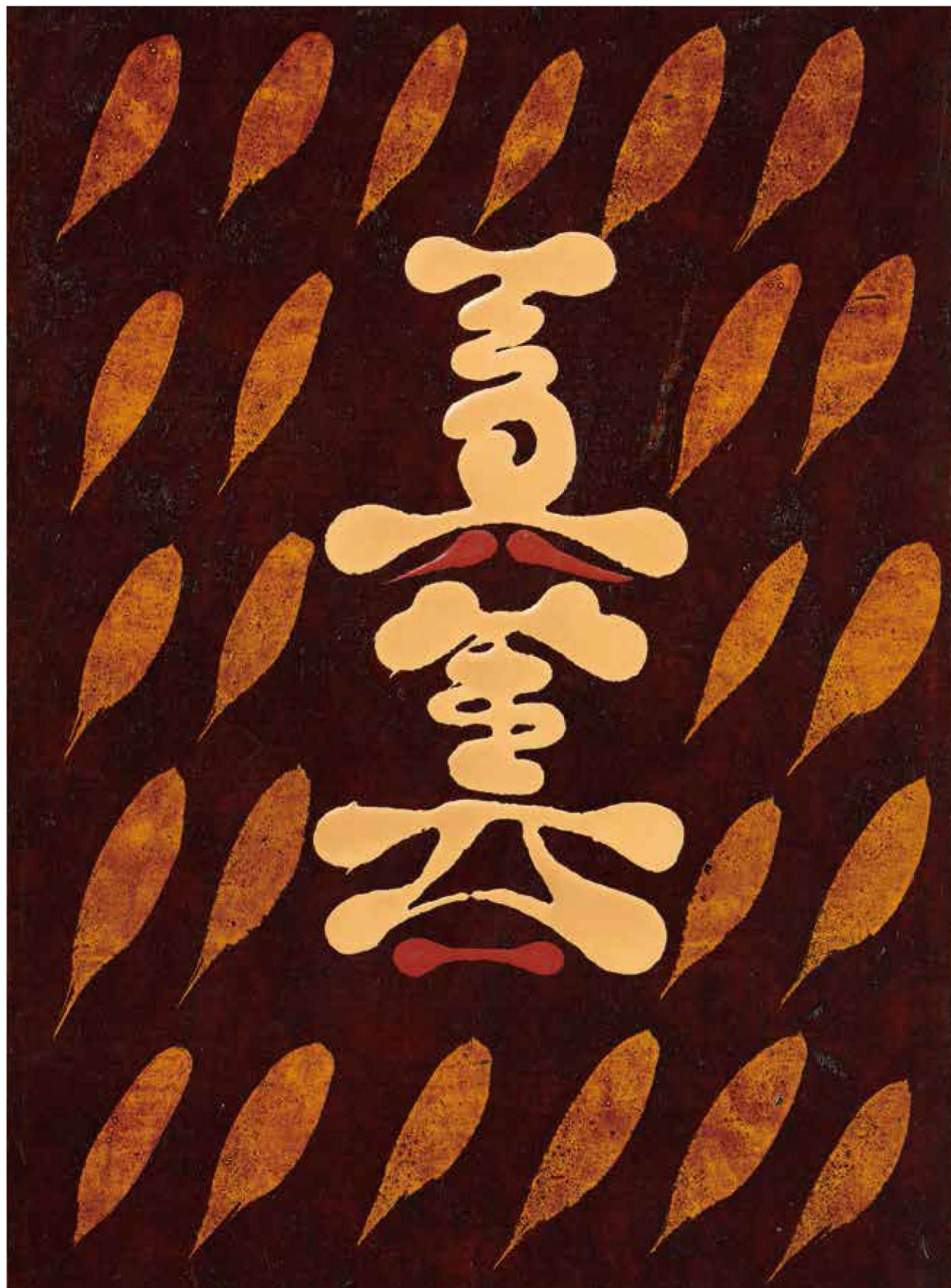




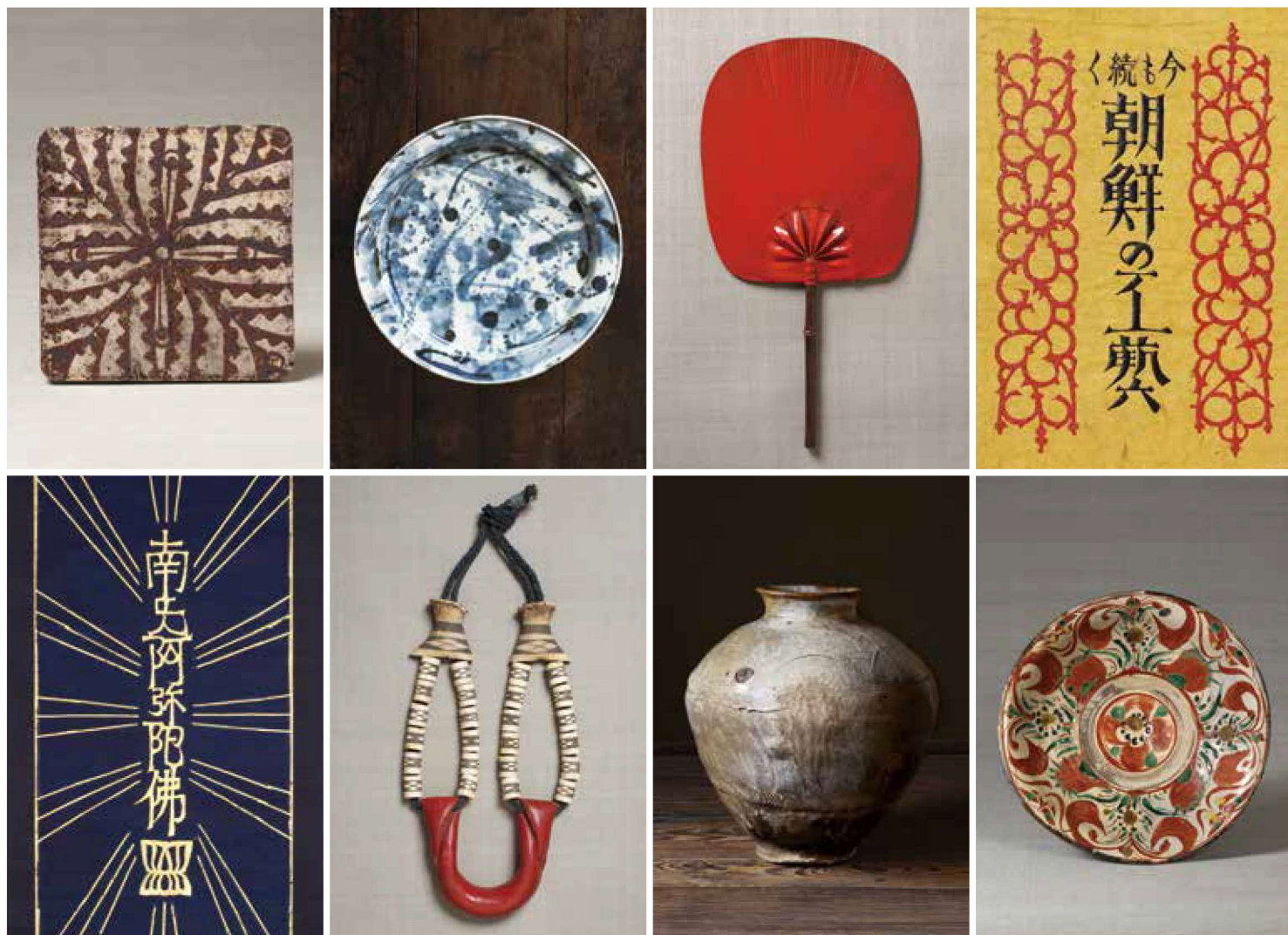
柳宗悦唯一の内弟子

鈴木繁男展

一手と眼の創作 2024年1月14日(日)－3月20日(水・祝) 日本民藝館

金蔴絵師の次男として静岡市に生まれた鈴木繁男(1914-2003)は幼少期から漆芸を仕込まれ、模様を生む能力を育んでいました。その才能をいち早く認めた柳宗悦(1889-1961)は唯一の内弟子として1935年に鈴木を入門させます。柳から工芸や直観について厳しく教育され、開館前の日本民藝館陳列ケースや展示台への拭漆塗りなどもおこないました。鈴木の仕事が初めて衆目を集めたのは雑誌『工芸』の装幀で、和紙に漆で描かれたその表紙は、多くの民藝運動の関係者や読者を驚かせたのです。その後、沖縄県・壺屋の素地に上絵を付けたことで始まる陶磁器制作は、愛媛県・砥部や愛知県・瀬戸本業窯などの伝統的な産地や、地元静岡県・磐田に築いた窯で、彩り豊かな花を咲かせました。そして、柳著作の装幀、各種の漆絵、名号などの文字、樺細工やポスターの意匠など、多岐な分野で優れた作品を残していきます。

鈴木作品の特質は、筆や型を用いて施された模様の独自性でしょう。古今の工芸品から滋養分を受取り、それを十分に咀嚼して生んだ品格ある模様は、今も燦然たる光彩を放っています。また、柳に鍛えられた眼による創造も忘れてはなりません。鈴木が蒐めた古作の優品は当館のコレクションにも散見でき、それは、所蔵品の中で確かな位置を占めています。本展は没後20年の節目に合わせ、これまで認知されることの少なかった工芸家・鈴木繁男の手と眼による創作を提示し、約半世紀にわたる多彩な仕事を顕彰するものです。



左上より時計回りに、鈴木繁男作 鉄印判手陶板 磐田 1960年代 縦24.5cm／鈴木繁男作 呉州打掛皿 砥部 1950年代 径32.0cm／鈴木繁男作 久能团扇 1950年頃 長さ47.0cm／鈴木繁男装幀 柳宗悦著『今も続く朝鮮の工芸』1947年／鈴木繁男作 色絵草花文皿 素地・壺屋 1939年 径32.2cm／鈴木繁男蒐集 灰釉蓮弁文壺 渥美 平安時代末期 高43.5cm／鈴木繁男蒐集 牛飾 江戸時代 長さ69.0cm／鈴木繁男作 名号本尊(部分) 1951年
〔表面写真〕鈴木繁男装幀 雑誌『工芸』第81号 1937年

記念講演会「鈴木繁男先生の思い出」| 講師・柴田雅章(作陶家)| 2024年3月16日(出)| 料金・300円(入館料別、要電話予約)

開館時間10:00-17:00(入館は閉館30分前まで)| 月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館)| 一般1200円、大高生700円、中小生200円| 西館公開日(旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで)| 〒153-0041東京都目黒区駒場4-3-33 Tel.03-3467-4527| 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

記念図録『鈴木繁男 手と眼の創作』(予価・税込2,750円)

日本民藝館ミュージアムショップ、またはオンラインショップでお買い求め頂けます

